

朝倉とともに 2017.12.3

防災士 朝倉災害支援ボランティア活動センター

代表 天野 時生 副代表 橋本 康弘

第15号

12月3日(日)雲ひとつなく暖かな小春日和の下、6名の仲間が集まり志波富有柿の収穫作業を行った。農園から見下ろす景色は絶景で汗ばむほど陽気の中、21ケースを収穫できた。

富有柿収穫 復興の象徴

11月中旬頃から冷え込みが厳しくなり、霜も降りてきた。寒暖の差は柿の実の甘さを出す効果があるが霜は柿の実にとっては腐敗を早めたり傷がつき、市場に出せなくなるという影響が出るため早め

の収穫作業が必要となる。この日は天候も良く12月にしては気温も高かったが以前は雪降る中での収穫作業もあったと聞く。今年は来週末まで収穫が終わるが来年へ向けて準備作業は続く。



九州北部豪雨で亡くなられた方へ謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。ともに早期の復旧・復興を祈念します。



この農園は8月に倒木や石を撤去した場所で、農家の方から被災当時の説明を受けていた。その時、川が土砂で埋まっていたり、柿を運ぶモノレールが壊れている状況を目の当たりにして被害の大きさを深く知ったがそのままの状態が残っている。



柿農家再生プロジェクトⅧ

豪雨の土砂は奇跡的に農園の脇を道路に沿って下へ流れており、比較的大きな被害はなかった。ただ8月の時点では実が生るかどうかは難しいと言われていたが柿の実は順調に成長してこの日の収穫を迎えることが出来た。しかし、もう少し土砂の流れがずれていたら収穫も厳しかったことを考えるとまさに紙一重の状況であった。周辺の農園では今年、残念ながら収穫を断念しなければならなかったところもある。柿農家再生プロジェクトは収穫後も支援を継続していく。朝倉とともにあるために。